

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 第25回全国公民館セミナー参加レポート

4.5

- 2 トピックス 「本紙編集委員会開催」 編集長
- 3 視点 「乳幼児親子に学びと出会いの場を」 マミーズ・ネット 中條美奈子
- 3 ひろば 「楽しむ」ことに使いたいセカンドステージ 阿賀町・西村 力
- 6 実践記録シリーズ 「やまびこキャンプ」 阿賀野市生涯学習課
- 7 サークル交流 「きり絵の世界に魅せられて」(加茂市) / 「例会は我らのサロン」(阿賀野市)
- 7 素顔拝見 石田 守之さん(聖籠町) / 中山亜矢子さん(燕市)
- 8 お元気ですか 「私の健康法」新潟市・西島 功さん
- 8 information



大地の公園 糸魚川ジオパーク「子ども自然観察会」(糸魚川市)

表紙解説

新潟県最西端の糸魚川市は世界ジオパークに認定され、子ども達も大地の歴史を楽しく学んでいます。

本紙編集委員会開催

編集長 田原 理

本年度第2回目の編集委員会が2月17日(月)に新潟市中央公民館で開催されました。



原稿も掲載する。「実践シリーズ」について

○他の市町村等の実践を見て大変刺激を受けている。

○実践シリーズの集約版を作成したい。

「特集」について

○「特集」は月報の目玉記事なので継続が必要。
○他県から高い評価を受けている。

「その他」

○「編集長のつぶやき」はおもしろい。

○写真を多く掲載する編集方針は良かった。

会議では、紙面構成について意見交換が行われました。「お元気ですか」について

○このコーナーは新企画で掲載を始めて2年経過したが、概ね好評だと思おう。

○市町村の担当者が原稿依頼先を役所のOBにお願いすることが多い。広く意見集約することが良いので、公民館利用者等の

以上の意見交換から、来年度の紙面構成は今年度を継続する方向で編集することになりました。また、表紙写真などの提供、執筆をローテーションで割り振ることも確認されました。すでに決定している来年度9月までの各市町村の割当は次のとおりです。
なお、10月からの割当は6月に開催される第1回編集委員会にて決定され、各市町村にメール配信する予定です。

月	表紙	ひろば	サークル交流		素顔拝見		お元気
4	佐渡市	津南町	魚沼市	弥彦村	柏崎市	出雲崎町	妙高市
5	見附市	五泉市	南魚沼市	関川村	加茂市	粟島浦村	村上市
6	長岡市	刈羽村	胎内市	阿賀町	五泉市	糸魚川市	新発田市
7	燕市	南魚沼市	新潟市	湯沢町	田上町	上越市	胎内市
8	阿賀野市	湯沢町	長岡市	出雲崎町	三条市	阿賀町	十日町市
9	柏崎市	聖籠町	上越市	妙高市	新潟市	長岡市	佐渡市

「特集」のテーマ、執筆予定者は次のとおりです。

月 号	テーマ	執筆予定者	編集担当者
4月 734号	新年度の活動に向けて	事務局長	事務局長
5月 735号	新任職員ガイド	小川清貴・十日町市	中越委員
6月 736号	県大会展望	高橋副会長	新潟市委員
7月 737号	特別寄稿1	白戸洋・松本大	事務局長
8月 738号	特別寄稿2	中島純・新潟経大	事務局長
9月 739号	県大会事例発表1	中越発表者	事務局長

月 号	テーマ	執筆予定者	編集担当者
10月 740号	県大会事例発表2	上越発表者	上越委員
11月 741号	県大会事例発表3	下越発表者	下越委員
12月 742号	座談会ベテラン編	事務局長	新潟市委員
1月 743号	座談会若者編	事務局長	新潟市委員
2月 744号	新年度に向けて	下越副会長	下越委員
3月 745号	全国セミナーレポート	参加者	事務局長

なお、執筆予定者は執筆交渉を経てから決定しますので現在はいくまでも予定です。

すでに予告してありましたが、4月から購読料を1部10円の値上げをすることが評議員会で承認されました。今後、紙面の充実に一層努めて参ります。なにとぞよろしくお願いたします。

視点

乳幼児親子に 学びと出会いの場を

NPO法人マミーズ・ネット 中條美奈子



皆さんよくご承知のように、日本の出生数が減ってしまっています。子どもたちの数は、この二十年ほどでも三分の一は減ってしまったそうです。そのために、身近に赤ちゃんがいてお世話をする機会があつて大人になつた、という人は少数派になつてしまっています。横浜市の調査では、親になつた人の七割は、我が子が生まれるまで、おむつを替えるなどの赤ちゃんのお世話を体験したことがなかったそうです。

以前なら、親や周囲にいる子育て仲間から自然に受けつがれてきた子育ての知恵や知識を得ることが難しくなつてしまつています。同じ年頃の子どもを持つ親たちが集まり、互いに情報交換するよう機会を作っていくことが、今後ますます必要とされると思います。近所で子育て仲間を見つけることが難しいので、公民館などで行われる事業が大切な機会になります。その中でも特に、出産後から保育園・幼稚園等に入園までの期間の親子は、孤立しがちであり、学びの機会が得にくいようです。乳幼児とその親が地域の他の親子と出会い、ともに学び、仲間を作っていく場として公民館が果たしていく役割に期待しております。

H O T N E W S

掲 示 板

本紙「公民館月報」購読料 値上げのお知らせ

本紙は過去18年間、現行の購読料で発行をしてきましたが本年4月からの消費税増税に伴う発行経費を試算しましたところ、現行では赤字になることがわかりました。

つきましては、出費多端な折誠に心苦しいのですが、購読料の値上げにご理解いただき引き続きご購入をお願いいたします。

なお、値上げにつきましては2月20日(木)に開催された理事会、評議員会で承認されました。

記

新潟県公民館月報

(現) 1部150円 → (新) 1部160円
年額 (現) 1,800円 → (新) 1,920円

*本会が斡旋している「月刊公民館」(全公連発行)も値上げされます。

(現) 1冊676円 → (新) 1冊700円
年額 (現) 8,112円 → (新) 8,400円

ひろば

「楽しむ」ことに使いたい セカンドステージ

阿賀町社会教育委員・公民館運営審議委員 西村 力

平均寿命の伸びと相まって高令化率向上が色んな弊害をもたらしている。とりわけ過疎集落を多く抱える私の住む町は高令化率では県下一高い自治体である。この辺では現役を退いたら隠居し、家に籠もりひっそりと生涯を終えるのが美德という習わしが強い。この習慣を打破しないとそれこそ病人だらけの寂しい町になつてしまうとの危機感があつたので退職後地域に戻り活性化に少しでも寄与したいとの思いから「楽しむ」ことに活動しようとする。実に様々なことに手を染めた。震災復興チャリティ芸能祭の企画運営、地域老人クラブ、平均寿命の伸びと相まって高令化率向上が色んな弊害をもたらしている。とりわけ過疎集落を多く抱える私の住む町は高令化率では県下一高い自治体である。この辺では現役を退いたら隠居し、家に籠もりひっそりと生涯を終えるのが美德という習わしが強い。この習慣を打破しないとそれこそ病人だらけの寂しい町になつてしまうとの危機感があつたので退職後地域に戻り活性化に少しでも寄与したいとの思いから「楽しむ」ことに活動しようとする。実に様々なことに手を染めた。震災復興チャリティ芸能祭の企画運営、地域老人クラブ



セミナー参加レポート



「映画づくりから
公民館を考える」
新潟市中央公民館
丸山 夕香

平成26年1月15日～17日の3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで「第25回全国公民館セミナー」が開催されました。「公民館のあり方を考え、もっとPRしよう!」をテーマに、シンポジウム・映画づくりのワークショップ・講座を通して、約80名が一緒に考え、活動し、学びました。

1日目のシンポジウムでは、公民館のおかれている状況について、大学生の公民館調査の発表を交えながら、学校や他部局との連携、市民の話し合いの場をどれだけ公民館でもてるかなど、パネリストのみなさんが実際に取り組んでいる事例を基に意見交換が行われました。最後には「仕事への前向きな意欲はなによりも大切」「学び続けることや何が必要かを問いかけていく姿勢を持ち続けること」といった熱いメッセージが参加者におくられました。

2日目は10グループに分かれ、映画づくりを行いました。「なぜ映画づくり?」「1日で素人に映画がつけられるのか?」という参加者の疑問と不安のなかでスタートしましたが、シナリオづくりから撮影まで話し合いと作業に追われた約8時間は、楽しくあっという間でした。私たちのグループは、最初から活発に話し合いが進み、とてもテンポの良い作品が出来上がりました。考えをまとめることに苦労したグループもあったようですが、それぞれに作品に対する思い入れと達成感を味わったと思います。映画づくりの3原則「①話し合う(聞き合う)②力を合わせる③あきらめない」は公民館の仕事に通じる、という講師の言葉を体感できた1日でした。



3日目は、「講座づくりのヒント」をたくさんいただきました。企画とプロデュースを専門にしている講師から、不完全な「種(プログラム)」に「クリエイティブ(アイデア・工夫・デザイン・アートなど)をプラス」した全国のような事例をご紹介いただきました。既存の事業も他の角度から見直したり、少し新しい要素を加えることで、魅力的なものにする手法を少しでも真似してみようと刺激をいただいた講義でした。

3日間のセミナーは、過ぎてしまえばあっという間でしたが、新しい体験と学ぶこと・考えることは盛り沢山で、これからまだまだ自分の中で消化が必要かもしれません。そしてなによりも、ここで出会った、悩みながらも少しでも良い事業をしようと頑張っている全国の公民館職員から刺激と元気をもらった研修でした。



第25回全国公民館
セミナーに参加して
新潟市石山地区公民館
山際 結城

智恵子は東京には空がないと言ふ(高村光太郎『智恵子抄』から引用)が、山際は代々木には青空があった、まばゆいばかりの陽光とぬくもりは、思わず新潟に帰ることをためらうものであった、と言おう。

さて研修一日目はシンポジウム「これからの公民館の役割と課題」、文科省の信任厚い清國祐二氏を座長に、五人のパネリスト、内二人は大学一年生で(女性)会場は華やいていけると感じられた。若いてイイと感じる自分がいた。文科省坪田社会教育課長「運営審議会が任意設置となるにあたり、局を上げて反対したが負けた。あれは失敗だった。今でもその重要性を痛感している」。



2日目はプロの脚本家栗山宗大氏と、同じく映画監督林弘樹氏(FireWorks-市民参加型映画事業を展開-)の厳しくも本心からの指導の下で「公民館の映画をつくろう」、以下お二人の言葉から抜粋【会話能力の向上、映像で物語ることで・ひと・組織・地域社会の未来をひらく可能性、スタッフ間の対話が大事、対話とは i) 話し合う=聞き聴き聞きあう ii) 力を合わせる iii) 諦めない、演技者が恥ずかしがると観ているほうがつらくなる、起承転結を考えるとつまらなくなる、エチュード即興の効用、脚本を一本仕上げるに10%やせる、監督とはアイデア“客観性の担保：この場面を撮るとどうなるのか・物語の交通整理”、で皆が納得してくれるか全責任を負いとても孤独、場面=1枚の絵、1シーン1カットで、カット割り10年早い、ズームはやめとけ、ヨリとヒキ、START・CUTをはっきりと、もっとメリハリを!等々】

かくして研修生80人は映画人のはしくれとなったのでした。今、映像による地域文化の継承を目的とした地域単位の映画作りがブームだそうです。地域づくりを標榜する公民館職員には、映画づくりのノウハウがSNSを含めて必須アイテムとして、求められるかもしれません。ちなみに昨秋県生涯学習推進センターで演題「映画は国境を越えるか?」、講演された東京情報大学伊藤敏朗氏の「カタプタリ」誕生までの経緯とネパールとの出逢い—そこで何を学んだか—も、地域とは、人が生きるとは、を考えさせるものでした。

25回にわたる全公連セミナーにかかわった方々の苦悩と喜び、全公連スタッフの企画力とマンネリ打破への意気込みが感じられた三日間は、期待を上回る貴重な体験の場でした。全公連鹿熊会長「学校教育の分厚い法令に比して社会教育は二本の法令のみ、これは自由があるということなので皆さんおおいに動いてください」。

次回研修会への皆様のご参加を、おすすめいたします。

特集

第25回全国公民館



「主体性」と「創造性」

村上市中央公民館
岸 宗光

平成26年1月15日(木)~17日(金)の3日間、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に第25回全国公民館セミナーが開催された。

公民館の仕事は、新採用職員時代に地区公民館を6年間経験し、今年度から中央公民館の担当となった。7年間の経験の中でも全国研修に参加するのは、初めてなので期待と不安が入り混じる中での参加となった。

村上市では、平成20年の市町村合併以来、何年間も「新しい村上市で公民館がどうあるべきか」の議論がされておらず、旧市町村の事業を踏襲してきた。平成25年度は、社会教育委員会の中で改めて「村上市の公民館がどうあるべきか」を何度も議論を重ねている。こうした状況の中での研修参加ということもあり、自分自身も「これからの公民館」について悩みを抱えていた。そんな中、今回の研修で一つの「答え」がはっきりと見えた瞬間があった。

研修2日目、各グループに分かれてのワークショップ「公民館の映画をつくらう」を行っていた時だった。参加者に与えられた課題は、「午後3時40分までに3分間の映画を創ること」。

午前中は、監督やキャストなど役割分担を決め、ストーリーとなる脚本作り、午後からは実際の撮影と、難しい課題にグループのメンバーで頭を悩ませながらも必死に取り組んだ。途中で、講師の栗山宗大さん（FireWorks取締役）から無理難題が次々と出され、最初に考えたストーリーは、どんどん形を変えていった。

一日の作業が終わり、夕方から上映会を行った。そこで、栗山さんからの一言「他のグループの作品を見ても、自分たちが作った作品が一番良いと感じたはずです。それは、自分自身が主体的に関わって創ったからです。」



この一言が衝撃的だった。そもそも公民館の原点は「住民自治」、しかし、近年の公民館は、「社会教育施設として講座や事業の実施」に重点が置かれ、市民の主体的な取り組みを促進することがおろそかになってきたと改めて痛感した。

もちろん、普段の事業の中で「市民参画」「市民協働」を意識しながら取り組んではいるが、まだまだ「お願いして協力してもらう」関係が多く、主体的になっていないのが現状である。

これからの公民館にとって重要なのは「市民の主体性」を育みながら「創造性」のある活動をプロデュースしていくことが、一つの「答え」だと確信できた。変化する時代のなかで、これからも地域から必要とされる公民館であり続けるために、自分自身も汗を流していく。



これからの公民館の役割

新発田市紫雲寺地区公民館
奥村 正弘

1月15日から17日の3日間、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで各都道府県から公民館関係者80名が集い、「第25回全国公民館セミナー」が開催された。セミナーでは、公民館が地域社会の中で力を発揮していくための今後の在り方について、また現場の優れた実践や有識者の助言を通して、どのようにして地域に必要な施設をめざすべきなのか、シンポジウム、ワークショップ、講座・事例紹介が行われた。

シンポジウムでは、「学校教育」を発想しがちであるが、むしろこれからは「社会教育」（道徳・郷土・キャリア・英語教育等）が重要であり、「学校教育」でカバーしきれない部分を「社会教育」で補っていく必要がある。その「社会教育」の中心的役割を担うのが公民館である。また、公民館職員の専門性・資質とは仕事への熱い思いと前向きな意欲である。講座づくりばかりに終始してしまうと、講師の呼び屋、イベント屋に留まってしまう。本務は「地域づくり」、「人づくり」のファシリテーターとなるべきであると、まさに目からウロコの強いメッセージを伺ったように感じた。

ワークショップの映画製作では、当初、わずか1日で構成から撮影までできるのかと不安だらけであったが、四苦八苦しながらなんとか上映までこぎつけることができた。講師の総括でも「チームワークで乗り越える。」「一人で考えて無理な事でもグループで意見を出し合うことで乗り越えられる。」「話し合うこと、聞きあうことが大切。」「更には「公民館は地域づくり、人づくりの拠点である。」「と力強い激励を頂くとともに、話しあい、力を合わせる、諦めない精神を改めて考えさせられる内容であった。



講座・事例紹介では、「+クリエイティブ」の手法を解説頂いた。クリエイティブは、「創造的な」の意。しかし、語源には「ぶち壊す」の意がある。今あるモノをぶち壊し、新しい何かを作り出す。何に「+クリエイティブ」するか？防災、高齢者福祉、まちづくり、教育（子ども）さまざまな場面で活用でき、既成概念にこだわらず、豊かな想像力が必要で「聴いて（意見）」、「訊いて（質問）」、話す人の良さを引き出すことが大切であることを再認識させられた。

セミナーの結びには、「社会教育」に携わる公民館職員は「学校教育」とは違い、自分達の創意工夫次第で好きな事、やりたい事にチャレンジできるとの言葉も頂き、3日間という中で実に内容の濃い自己啓発と意識改革の機会を与えて頂いた。この経験を糧に心機一転「地域づくり」、「人づくり」に携われるように日々チャレンジしていきたいと思う。

実践記録 シリーズ 192

「やまびこキャンプ」

阿賀野市生涯学習課

阿賀野市生涯学習課では、市内小学5・6年生を対象に五頭連峰少年自然の家において、2泊3日の日程で「やまびこキャンプ」を開催しています。

事業の趣旨として、

- 異学区の歴史と産業等を学び教えあい郷土を見つめなおす。
- 自然の中で規律ある集団行動を通して、自己及び友人のよさを再発見させる。
- 異なる学校の子どもたちの交流を図り、主体性、協調性、実行力を養うとともに問題解決能力を高める。

以上の3点を掲げています。

平成25年度「やまびこキャンプ」

2泊3日 参加者35名

1日目：午前中は地元のヨーグルト工場見学。午後からはアイスブレイクを通じ、初対面の友だちと打ち解けました。夕方は野外炊さんでカレー作り、夜は映画鑑賞を楽しみました。



①ヨーグルト工場の見学



②アイスブレイク



③野外炊さん カレーライス作り

2日目：午前中は、阿賀野市スポーツ推進委員が考案したレクリエーションスポーツのフォービーチで汗を流し、午後からは、自然の家名物の「沢登り」で、自然と触れ合いました。夜は、キャンプファイアーで炎を囲んで幻想的な時間を共有し、心をひとつにして過ごしました。



④フォービーチ



⑤自然の家名物「沢登り」



⑥天然のウォータースライダー



⑦キャンプファイアー

3日目：最終日の午前中は、やまびこキャンプの写真飾る写真立てを作りました。



⑧創作活動（写真立て作り）

まとめ：やまびこキャンプは、市内小中学校の教員の方から、ボランティアで運営のご協力をいただいております。学校側から事業の理解を得られています。他にも大学生の授業科目の「学習支援実地演習」として学生の受け入れを行っており、職員のサポートをしていただいております。

2泊3日の期間、家族と離れた環境で他校の児童と出会い交流を深め、豊かな自然の中で過ごすことにより主体性、協調性、実行力が養われていることを感じています。また、この経験が子どもたちの成長に生かされることを期待しています。



品展や市展に出品します。毎年十一月には、公民館作品展も魅力の一つです。

きりの絵の世界に魅せられて

きり絵サークル

公民館の初心者きり絵教室で学んだ修了生達が、きり絵の世界に魅せられて、継続して活動していきたいと今年の一月から立ち上げたサークルです。

現在、会員は十名(男女同数)年代は六十代が中心です。毎回、プロの先生が指導にあたって下さいます。会員は随時、募集中です。

加茂市・きり絵サークル
野村 直美 記



例会は我らのサロン

阿賀野ハーモニカクラブ

ハーモニカで充実した生活をモットーにハーモニカライフを楽しんでいる。社会教育関係団体に認定され、5月末で7周年。現在20人が所属。男女約半々で全員65歳以上だ。毎月3回の例会は基本練習と、抒情歌・流行歌の練習を中心にした活動を続けている。

他、地域文化祭で発表。毎月、病院と介護施設に行き、要請があれば施設や団体に紙芝居や手品などを携えて訪問し、喜ばれている。例会や訪問奉仕活動数は、年間合計で70件余になった。

総会や課題発表会、新人会員歓迎会など年4〜5回の会食会や研修旅行を実施。会員執筆の原稿で毎月発行の会報も、2月で90号を迎えた。

シニアになっても感動があり、向上心に富み、健康に良く、悪口や愚痴も聞かず、美味しい酒を飲んで歌っている、例会は我らの楽しいサロンである。



阿賀野市・阿賀野ハーモニカクラブ
事務局 佐藤 巖 記

聖籠町市民会館は公民館、体育施設、文化会館、図書館から成る総合学習施設です。職員もそれぞれ多様な業務を担っているのですが、知的で温厚ながらも、ひた向きに太古のロマンを追い続けるナイスミドルが一人。その名も石田主任。後にも先にも『社会教育だより』という町広報誌に、漫画で登場できるのはこの先輩ただ一人です。漫画『教えて石田さん』では文化財をテーマに、町マスコット緑丸に対して石田さんが文化財の博学っぷりを、とくとくと



聖籠町社会教育課
主任 石田 守之さん

披露する(?)というのですが、町内小中学生をはじめ町民のみなさんに大人気のコーナーです。また、お正月公民館祭りを筆頭に子ども達の夢や古代のロマンを開拓していくその姿は、まるで和製インディーズジョーンズそのものです。これからはみんなに愛と勇気と文化財の大切さを伝える素晴らしい先輩でいてください。

(聖籠町社会教育課 主事 吉田 晃一 記)

燕市中央公民館の主任、中山亜矢子さんを紹介しします。

平成24年度までは市職員として採用されて以来、燕市立図書館に10年間勤務しておりました。

図書館への指定管理者制度導入により、今年度から中央公民館に勤務しています。現在担当している主な仕事は、図書館での知識・経験等を生かし子ども体験講座や市民教養講座、青



燕市生涯学習課・公民館係
中山亜矢子さん

少年健全育成などです。

中山さんの強みは、素敵な笑顔と真剣さ、そして人を和ませてくれる雰囲気です。これからも市民に喜ばれる事業を企画・運営するとともに、中央公民館における中心的なスタッフとしてますます活躍してくれことを期待しています。

(燕市中央公民館 星野 賢吉 記)

素顔拝見

お元気ですか

「私の健康法」 西島 功 (新潟市)



私は健康を維持していく手段として社交ダンスをしております、音楽のリズムに合わせて踊り、上手にできたときは満足感にひたっております。

スロー・スロー・クイック・クイックと体、全体を使って踊

るのですが、足の筋肉がないとスムーズな動きはできない、腕と腰の筋肉がついてないと女性を支えていけない、崩れてしまいます。若い時から体を鍛えていた方には足元にも及びませんが、少しでも近づきたいと常日頃、努力しております。ジョギングと、腕の筋トレなどをして体力維持をしております。100歳を過ぎても踊りが出来たら嬉しいと思っております。若い人達には迷惑な話でしょうが出来たらいいなと独り言を言っております。本当にできたら奇跡ですね。会場を提供していただいております。公民館には感謝しております。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

information

2月20日(木)に開催された評議員会で、来年度の会議予定や公民館月報の編集等が決定しましたのでお知らせします。なお、事業計画、予算等については月報4月号特集でより詳しくお知らせします。

<来年度の主な大会、研修会、会議開催予定>

- 1 評議員会 ①5月20日(火) 新潟市
②2月19日(木) 新潟市
- 2 理事会 評議員会①②と同日開催
③6月11日(水) 新潟市
- 3 監事会 5月9日(金) 新潟市
- 4 県大会 7月17日(木) 新潟市江南区
- 5 関プロ埼玉大会 10月16日(木)
*同日、同会場で全国大会開催
- 6 編集委員会 6月、2月開催
- 7 正副会長会 必要に応じて

<公民館月報について>

- 1 購読料値上げについては承認(3ページ掲示板に詳細記事)されました。
- 2 以前から、月報のカラー化の意見がありました。来年度後期10月号で部分的にカラー化を試行します。

<県公連ホームページ>

ホームページを公開しています。検索は「新潟県公民館連合会」です。研修会、大会のスナップ写真等も掲載し、今後は、随時、各種情報を最新化していきます。発行済み月報をすべてアップロード(3月中に予定)しますのでご覧ください。

事務局長のつぶやき

今年度も無事発行を終えました。ありがとございました。ソチ五輪に沸いた2月。世の中のもてない男が1年で一番嫌な日、バレンタインデーも終わりました。もてる男は尻が下

大切な子どもたちのために

日本の将来を担う大切な子どもたちや地域住民の安全を確保するため公立学校施設の耐震化を推進しています。

新潟県公立学校施設整備促進期成会
会長(出雲崎町長) 小林 則 幸
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

がる日。今年も悲喜こもごもがあったことでしょう。私は例年どおり2コ。(愛人1号の妻と同2号の娘から)例年はハワイトデーに10倍返しをさせられるので尻は下がらないです。バレンタイン もらうチョコほど 甘くない (田原)